

仙台高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	思想史	
科目基礎情報							
科目番号	0030			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	情報電子システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	井出・宇野・坂井・松沢『大人のための社会科 未来を語るために』（有斐閣）						
担当教員	笠松 直						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
基礎的概念の定着	言及する思想史上の重要人物・概念について9割程度が定着			言及する思想史上の重要人物・概念について7～8割程度が定着		言及する思想史上の重要人物・概念の定着が6割に満たない	
調査検討	提示された課題について必要十分な調査検討ができる			提示された課題について調査検討をこなせる		提示された課題についての調査検討ができない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
旧JABEE (C) 情報工学あるいは電子工学の分野で、人間性豊かなエンジニアとして活躍するため の知識を獲得すること							
教育方法等							
概要	主に井出・宇野・坂井・松沢『大人のための社会科』の精読を通じて、1) 本書の読解に必要な日本史・世界史・思想史の基礎事項を確認し、2) 現代の政治的・経済的・社会的諸課題の所在を確認し、さらに3) 公正な社会の実現に向けた取り組みについて理解する。						
授業の進め方・方法	教科書を精読し、諸種の用語について解説を加え、思想史的背景の説明を行う。また、教科書が意図する限りで現代的問題の分析・考察をも行う。教科書は「敷居」を下げるために専門用語等々を可能な限り絞っているが、これでは前提条件を共有しない者には理解しがたい点がでてくる。補うために追加資料を用意するので、教科書ともども予習・復習怠りないように。						
注意点	著者たちの問題意識から、本書は現代的諸問題に主たる焦点があっているように見えるが、そうした知的営為が可能な背後には高校～大学1-2年度程度の概論的知識が存する。受講者は、安易な”解答”に一足飛びに飛びつくことを厳に戒め、多様な価値評価基準を学び、それらを用いて自己の思想的立場を批判し、練り上げる知的態度を養うこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよび序説		本講義全体の意図・問題意識の説明、成績評価方法とレポート課題の方法が周知されること		
		2週	GDP―「社会のよさ」とは何だろうか		GDPなどの経済指標の概念を理解し、それらによって計られる「良さ」の内容と限界を理解する		
		3週	勤労―自己責任社会		そのよさが自明と思われがちな「勤労」概念を歴史的に考察。この概念がもたらす「良さ」の性質とその限界、副作用を理解する		
		4週	時代―時代を分けることと捉えること		これまでの教育で自明視されてきた時代区分の区分原理を理解し、現代の分析に応用できること		
		5週	多数決―「私たちのこと」を「私たち」で決めるとは		多数決の多様なやり方を学び、普段自明視する多数決の原理限界を認識する。さらにその基盤たる「私たち」の成立の根拠を問う		
		6週	運動―異議申し立てと正統性		投票に基礎をおいた民主主義制度を補完する物事としての運動、その正統性の調達のありようについて理解する		
		7週	私―自分の声が社会に届かない		民主主義の社会を成り立たせる原理のうち、「私」という個人と「私たち」の統合との間をめぐる現代的問題について理解する		
		8週	公正―等しく扱われること		以下、社会を支える原理を学ぶ。そのうち公正について正義論的な視座を理解できること		
	2ndQ	9週	信頼―社会を支えるベースライン		正義のひとにはさらに友愛が必要である。人間相互の信頼は貴重な社会的資源であることを理解する		
		10週	税と二重―共通の利益の実現のために		あるべき「助け合い」の諸条件、評価軸について学び、その複雑性・相互背反について理解できる		
		11週	歴史認識―過去をひらき未来に繋ぐ		共同の社会を構築するにあたって、基礎的な認識は一定程度共有される必要がある。アーカイヴスの重要性について理解すること		
		12週	公共性と財政		公共を実現するための前提条件、財政についての概括的理解ができること		
		13週	希望―「まだーない」ものの力		以上、基本的には現実の社会を認識して暗くなりそうなものだが、希望・幸福を語る原理について教示し、共有したい		
		14週	演習1		上掲の諸題目から学生の希望をとり、幾つかを選んで発展的内容を講義し、理解をふかめる。		
		15週	定期試験		基礎的事項の確認		
		16週	演習2；定期試験講評		試験の講評。また、上掲の諸題目から学生の希望をとり、1～2を選んで発展的内容を講義し、理解をふかめる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	60	20	0	0	20	0	100
基礎的能力	40	10	0	0	20	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	10	0	0	0	0	30